

助成対象活動報告シート

団体名：星崎学区連絡協議会

1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

- ◆ 令和6年度当初に、1月1日に発生した能登半島地震において緊急消防援助隊として出動した南消防署職員の活動状況会を開催し、住民の防災意識の高揚を図り、今年度の地区防災計画策定WSでの議論につなげていける機会とした。(7月～)
- ◆ 星崎学区における活動状況をみんなで活用、共有できる場として「SNS(Facebook)」を開設した。(7月)



- ◆ 大規模災害時に自分たちの地区や避難所で発生する困難事案を想定して自助・共助であらかじめ取り組んでいくべきことを考え、共有し、今後の地区防災計画に位置付けていくためのDIGを実施し、DIGの実施をとおして住民への意識づけと議論の活性化を図るため住民の中からファシリテータを選出、育成を図った。(7～11月)

- ◆ 地域の誰もが参加し、みんながつながれることを狙いとした「ぼうさいフェスティバル」を開催し、楽しく触れ合いながら防災を学び体験した。(10月)



2 活動の成果および目標達成度合い

- ◆ 地域の取組みを発信、共有するためのウェブサイト(Facebook)の構築はできたが、幅広い展開と発信体制の構築が思うように進まなかった。(75%)
- ◆ 「地区防災計画」策定に並行して地区の基本方針(構想)及び取組骨子について順調に策定できたことに加え、この取組み併せて地域の中からファシリテータ(6人)の養成できた。(100%)
- ◆ 気軽に集まり楽しく協働する環境づくりを狙った「ぼうさいフェスティバル」については、想定を上回る参加者を得ることができたが、さらなるつながりの強化に対する仕掛けはまだ検討の余地があった。(95%)
- ◆ まちなか防災クイズラリー(QR コードによる歴史と施設)については、令和7年3月の実施に向けて現在実施計画を策定中である。(50%)
- ◆ 地区防災会議については、個別事業所や民生委員協議会との防災連携を始めることはできたが、より多くの地域主体まで展開できなかった。(50%)

3 活動により見えた課題

- ◆ 基本方針(構想)が見えてきたことで、今後、構想の実現のための具体策をまとめていくことが、次に目指すべき方向となる。
- ◆ (防災)まちづくりを前に進めるためには、継続性と到達度合いを構成員が確認できることがポイントと考える。例えば、町内会、組の中で声をかける仕組みや災害に備える自助・共助の分かりやすい指標を設定するなどの検討が必要である。
- ◆ 積極的な広報について、Facebook を構築したが、十分に活用できていないことから、住民による活用方法について検討していく必要がある。

4 今後の活動等の展望

- ◆ 令和7年度に「星崎学区地区防災計画(風水害編)」を策定し、名古屋市防災会議に諮る準備を進めていく。
- ◆ 学区では、街中を活動の場と位置付け、ともに学び、ともに考えることができるよう、地域の掲示板、回覧板、SNSなどを活用して地域活動の普及広報を充実するほか、楽しく取り組むために、地区の防災に関する施設、神社仏閣など様々な場所を巡って、土地の成り立ちや災害リスクを知る「歴史・防災まち歩きラリー」も実施する。
- ◆ 本年3月に実施予定の中学生との「防災の輪を未来に広げるプロジェクト」をきっかけに、来年度も実施する「ぼうさいフェスティバル」も計画の段階から、中学生を巻き込んで若い世代とも日頃からつながる仕掛けを作っていく。
- ◆ そして、上記の取組みに併せ、最も身近な存在である向こう三軒両隣、町内会(組)単位での勉強会、町内会未加入者への広報の充実などを図りながら、大規模災害時の災害の課題である「災害時要配慮者の安全確保」の実効性を高めていく。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさ日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。